地域の暮らし・文化・生活史に根ざした在宅看護実践と看護教育に関する研究

関連するSDGsの国際目標

人間看護学部　人間看護学科　　准教授　　森本　安紀
研究分野：地域・在宅看護学、民俗学

少子高齢化や独居高齢者の増加に伴い、「住み慣れた地域で暮らし続けること」を支える在宅看護の重要性が高まっています。

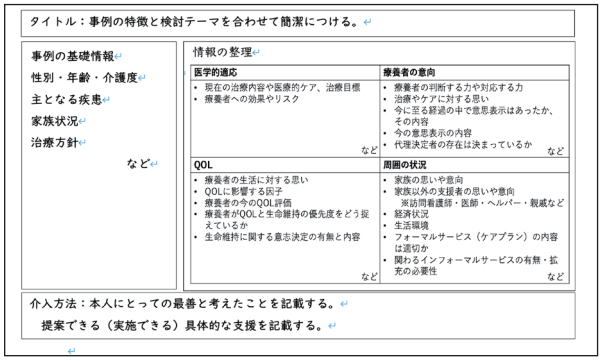
一方で、地域には長年培われてきた生活文化や相互扶助、民間信仰、地域行事など、人々の健康観やケア行動に影響を与える多様な文化資源が存在しています。

このため、民俗学的視点を取り入れながら、地域住民の生活史や語り、伝承文化を捉え、地域文化に根ざした在宅看護実践および看護教育のあり方を探究し、地域共生社会を支える看護職育成を目指します。

■在宅看護学実習における倫理教育の実践

本学の在宅看護学実習では、学生が実際に体験した臨床場面をもとに倫理カンファレンスを実施し、臨床指導者と一緒にデブリーフィングを行っています。

在宅療養者のニーズ・疾患・病期・家族・住まいというように多様な要因から分析することで、学生の倫理的感受性の育成を目指しています。実習で倫理カンファレンスを行うために、基礎教育より段階的な学習を行い、臨床での検討も教員がファシリテートを行っています。このような実践を通し、地域・在宅看護学における倫理教育プログラムの開発に取り組んでいます。


タイトル：事例の特徴と検討テーマを合わせて簡潔につける。

事例の基礎情報
性別・年齢・介護度
主となる疾患
家族状況
治療方針
など

情報の整理

医学的適応	療養者の意向
• 現在の治療内容や医療的ケア、治療目標 • 療養者への効果やリスク など	• 療養者の判断する力や対応する力 • 治療やケアに対する思い • 今に至る経過の中で意思表示はあったか、その内容 • 今の意思表示の内容 • 代理決定者の存在は決まっているか など
QOL	**周囲の状況**
• 療養者の生活に対する思い • QOLに影響する因子 • 療養者の今のQOL評価 • 療養者がQOLと生命維持の優先度をどう捉えているか • 生命維持に関する意志決定の有無と内容 など	• 家族の思いや意向 • 家族以外の支援者の思いや意向 ※訪問看護師・医師・ヘルパー・親戚など • 経済状況 • 生活環境 • フォーマルサービス（ケアプラン）の内容は適切か • 関わるインフォーマルサービスの有無・拡充の必要性 など

介入方法：本人にとっての最善と考えたことを記載する。
提案できる（実施できる）具体的な支援を記載する。

図）ワークシート
症例検討でよく用いられているJonsenの臨床倫理４分割表を使用しています。

■地域文化を活かした高齢者の生きがい支援

過疎化や高齢化により、今まで培われてきた生活文化や相互扶助、民間信仰、地域行事など、人々の健康観やケア行動に影響を与えていた文化資源も失われつつあります。しかし、高齢社会や若年人口の減少という社会の進展によって生じてくる課題に対応するには、地域の力を活かした相互扶助が必要となってきます。そこで、フィールドワークを通して、文化的資源の現状を調査し、地域組織のあり方を研究しています。





写真
左）滋賀県　蛇の顔見せ（2017年調査）
1月14日の夜，この藁蛇を持ち、町内の家々を子供が廻る。

右）大分県　檜原山の松会（2023年調査）
現在は保存会が近隣の小学校へ田植え行事の踊りを教えに行く伝統文化の教育を担っている。

■事例検討会への参加

訪問看護ステーションなどと共同で地域で暮らす療養者支援に関する事例検討を行い、実践の振り返りや多職種連携におけるそれぞれの役割の分析を行っています。身近な問題から今後の実践に活かしていけるように、事例検討を積み重ねています。